第4章

施策と事業例

施策1
文化芸術を身近に感じられる環境整備

施策2
地域の文化資源の保存・活用・継承

施策3
文化芸術を通じた地域づくりに貢献

施策4
多様な分野の社会課題解決に向けて文化資源を活用

施策 1 文化芸術を身近に感じられる環境整備

文化芸術は人々の創造性を育み、アイデンティティの基点となるものです。区民誰もが、日常生活のなかで文化芸術に触れることができる環境づくりを進めます。

めざす姿

誰もが日常生活のなかで文化芸術に触れることができています

施策1−1　文化施設などを拠点とした文化芸術活動の充実

本格的な公演を実施できるホール機能を備えた文化施設や、区民が日常的な文化芸術活動を行う施設など、区内には自主的に文化芸術に触れることができる環境があります。この特性を生かし、文化施設などを拠点とした区民の文化芸術活動を支援し、年齢や障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが文化芸術を【鑑賞】、【表現】、【体験】、【応援】、【創造】できる機会を充実させます。

事業例

大田区文化祭　鑑賞　表現
文化芸術推進課

区民による文化芸術活動の発表・鑑賞・交流の場として、絵画や写真、書道、郷土芸能など幅広い分野で出展及び出場者を募って開催します。

NEW　平和のつどい　鑑賞　体験
文化芸術推進課、文化振興協会

式典やパネル展、戦争体験者の講話を通じて、平和について考える機会を提供します。

大田区障がい者文化展

大田区障がい者文化展　鑑賞　表現
障害福祉課

障がいのある方が日頃の創作活動のなかで制作した作品を発表します。

大田区障がい者文化展

公演サポーター　応援
文化振興協会

文化振興協会主催事業において、公演の事前準備や当日の会場案内に従事することで、楽しみながら文化芸術活動を支援する人を通年で募集します。

公演サポーター（アンケート回収）

民間事業者との連携　鑑賞　表現　体験
文化芸術推進課

民間事業者との協働により、区の財産を活用しながら、美術品などの鑑賞・表現・体験機会を提供します。

クラシック、ポピュラーなどの音楽公演　鑑賞
文化振興協会

未就学児でも楽しめるコンサートや若年層向けの公演など、誰もが身近に文化芸術に触れる機会を提供します。

国際都市おおた大使（来～る大田区大使）　応援
地域力推進課

区内在住などで区にゆかりのある外国籍の方を委嘱し、区の魅力や情報を国内外に発信したり、自国の文化を紹介したり、区民との交流活動を行います。

NEW　収蔵拠点を活用したワークショップ　鑑賞　体験
文化振興協会

区所蔵美術品などを収蔵する馬込アートギャラリーで、常設展示と同時にこども向け対話型鑑賞、区内在住アーティストによるワークショップを開催します。

国際都市おおた大使（来～る大田区大使）

OTAオペラプロジェクト　創造

文化振興協会

総合芸術といわれるオペラなどの本格的な舞台作品を創造する機会を提供します。またこどもから大人までを対象に、舞台作品に関連したワークショップなどを開催します。

OTAオペラプロジェクト

今後検討する事業

文化芸術活動の担い手を育成

文化振興協会

「大田区　文化に関する意識調査」において、前回調査（平成29年度）と比べて「文化・芸術に関する活動をしたことはない」と答えた区民が増えたことは、めざすまちの将来像の実現にとって課題です。この課題を解決するために、文化施設を拠点に文化芸術にかかわる指導者を育成したり、こどもたちの活動を受け入れたりするなど、区内に文化芸術活動の担い手を増やしていきます。

文化芸術活動拠点の検討

文化芸術推進課

区民を対象とした各種アンケート調査や、龍子記念館の来館者数などから、区内においてアートに触れる機会・環境へのニーズが高いと言えます。そこで、地理的条件や収容人数といった既存の文化施設が抱える課題の改善など、文化芸術分野の創造的なプラットフォームや地域コミュニティ形成の拠点づくりを検討します。さらに、さまざまな機能や性格を持つ施設を複合することで生まれる相乗効果の可能性も検討します。

施策1–2　アウトリーチ*につながる取組の推進

文化施設などで文化芸術に触れることがさまざまな理由から難しい区民に向け、文化施設以外で文化芸術に触れる機会につながる取組を推進します。

事業例

NEW　福祉施設訪問事業（音楽）（美術）

文化振興協会　福祉施設向け

芸術家が区内の福祉施設を訪問し、演奏を披露するなど、福祉施設利用者に鑑賞する機会を提供します。

NEW　郷土博物館出張事業

郷土博物館　こども向け

学芸員が小中学校や区内施設などに出張し、講演や展示などを実施します。

郷土博物館出張事業

学校出張講座

文化振興協会　こども向け

区内小中学校にアーティストを派遣し、音楽や伝統芸能、演劇、ダンス、演芸などの鑑賞プログラムを実施します。

学校出張講座（小学校）

学校出張講座（中学校）

特設展示

文化芸術推進課　インクルーシブ

　地域庁舎や特別出張所などの公共施設、民間施設に特設展示スペースを設け、区民や文化芸術団体が制作した作品の発表や、区所蔵美術品などの展示を行います。

アプリコ・アートギャラリー

文化振興協会　インクルーシブ

　区が所蔵する絵画を区民ホール・アプリコで展示します。

アプリコ・アートギャラリー

施策1−3　芸術家に活動の場を創出

　未来を担う若手演奏家を発掘するオーディションを行って公演の機会を設けたり、アーティスト・イン・レジデンスを実施したりすることなどを通じて、芸術家を支援します。

事業例

フレンドシップ・アーティスト出演者オーディション（ピアノ・声楽）

文化振興協会

　若手演奏家の発掘・支援のため、出演者オーディションを開催します。オーディション合格者は、文化振興協会主催のコンサートに出演することができ、自身の研鑽を積むとともに区民の鑑賞機会の創出にも貢献します。

フレンドシップ・アーティスト出演者オーディション（ピアノ）

フレンドシップ・アーティスト出演者オーディション（声楽）

NEW アーティスト・イン・レジデンス

龍子記念館

　アーティストが旧川端龍子邸アトリエで作品の滞在制作を行い、その成果を展示します。

アーティスト・イン・レジデンス

用語解説　アウトリーチ

第4章

施策 2 地域の文化資源の保存・活用・継承

区はさまざまな顔を持つ魅力的な地域で構成されています。自分の住んでいる地域の成り立ちや歩み、史跡、建造物、地域を代表する文化芸術の担い手を知ることや、祭礼・季節の行事などに参加することは、地域への誇りと愛着をもたらします。これら区の財産である地域の文化資源を守り、次世代へその魅力を継承していきます。

めざす姿

文化資源を通じて地域に魅力を感じ、この地に住むことに誇りを持っています

施策2−1 文化資源の調査・研究・活用

博物館などが中心となって地域ゆかりの資料を収集し、調査・研究を経て適切に保存します。これらの資料を展示や体験型イベント、講演会などを通じて広く公開及び活用して区民と共有するほか、区民による主体的な学びや活動もサポートします。

また、収集した資料の保存と活用の両立をめざし、デジタルアーカイブ化*を推進します。

事業例

資料の収集、調査・研究、保存

郷土博物館、大森 海苔のふるさと館、勝海舟記念館

地域の歴史やゆかりの人物を区民に紹介すべく資料を調査・研究し、保存します。また、区民からの寄贈や古書店からの購入などを通して、資料を収集します。

常設展、企画展の開催

大森 海苔のふるさと館

国の重要有形民俗文化財に指定された海苔の生産用具などを保存・展示します。

大森 海苔のふるさと館常設展

文化財の保存・保護及び普及啓発

大田図書館

文化財を後世に継承していくため、文化財の保存・保護に努め、普及啓発活動を行います。

刊行物の発行や講演会、公開見学会、写真パネル展の開催などを通じて、区民が区の文化財に触れる機会を提供します。

講演会の様子

区所蔵資料の修復

文化芸術推進課、郷土博物館、勝海舟記念館、文化振興協会、龍子記念館、熊谷恒子記念館

後世へ資料を適切に保存・継承するため計画的な修復を行います。

区所蔵資料の修復（肩衣）

常設展、特別展、企画展の開催

郷土博物館、勝海舟記念館

考古・歴史・民俗関係の資料を基礎とした調査・研究の成果を展示します。

勝海舟記念館常設展

博物館講座・体験学習会

郷土博物館、勝海舟記念館

区の考古・歴史・民俗について区民が学び、より理解を深めることができる機会を提供します。

郷土博物館を拠点に活動している団体の活動

郷土博物館

郷土博物館での展示や体験学習・講座を通して発足した団体が、これまで積み重ねてきた研究成果を発表したり、博物館事業への協力を行います。

土器づくり体験をしている様子

区所蔵資料のデジタルアーカイブ化

文化芸術推進課、郷土博物館、勝海舟記念館、龍子記念館

区所蔵資料の保存・活用の両立を図るため、デジタルアーカイブ化及び一元管理を推進します。

用語解説 デジタルアーカイブ化

コラム1　学芸員が行う調査・研究ってなに？

博物館などが中心となって行う調査・研究とは何でしょうか。知っているようで意外と知らない「調査・研究」について深掘りします。

調査・研究活動とは、博物館などの文化施設での展示やレファレンス（調べものや資料探しを行っている利用者への支援）、教育普及活動の基礎となる欠かせない活動です。調査・研究の手法は考古・歴史・民俗といった分野や対象とする資料によって異なります。

例えば歴史分野では、くずし字で書かれた古文書の文字起こしを行い、現代の私たちがわかる言葉に「翻訳」します。この作業を行う際に大事にしていることについて、学芸員は「恣意的に資料を見るのではなく、ありのまま受け止めること」と語ります。

調査・研究を経て、ようやく解説とともに資料を公開することができます。時には地域の方から古文書には書かれていない地域で伝承されてきたことを聞くこともあり、調査・研究内容に新たな気づきや発見をもたらしてくれます。このように調査・研究に終わりはなく、次の世代へと受け継がれていきます。

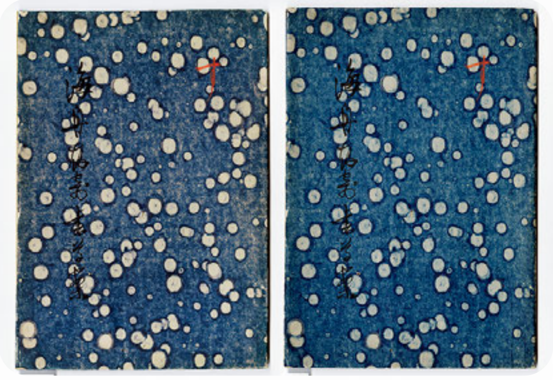
勝海舟記念館での様子

コラム2　所蔵資料の保存と活用のジレンマ

資料の活用（公開）と保存とは相反する行為です。活用する以上、資料の劣化進行は避けられませんが、活用しなければ、資料による歴史文化の後世への継承は困難です。この課題を解決する方法の一つが、レプリカ（複製品）の製作と活用です。

レプリカは原物に代わり、見る人にその本質を伝える役割を持ちます。レプリカを製作するにあたり、形状、質感、色味、さらには製作背景や作者の意図、製法などといった、原物を成り立たせている複数の要素を正確に把握し“レプリカで表現すべきこと”を探りますが、この過程で、原物が持つ年輪の深みや現代では再現不能な技巧の妙に触れ、驚嘆と畏敬の念を覚える時があります。これは“どれだけの技術や労力、費用を注いでも、決して原物の同一品は作り得ない”ことを再認識する瞬間でもあります。

このような過程を経て作られたレプリカは、見た人に原物と同等の感動を呼び起こす力を備えます。



勝海舟自筆「海防意見書」草案（1853年）

レプリカ　原物

施策2−2 伝統文化の継承

伝統文化とは、その地域の歴史や風土、価値観を反映したものであり、長い時間をかけて育まれ、時代とともに進化しながら継承されてきた地域のアイデンティティです。これら伝統文化を保存・継承する取組として、社会的評価の向上を図る区の認定制度の整備や、多くの区民の目に触れれるような普及啓発事業などに取り組みます。

事業例

大田区伝統工芸士の認定*

文化芸術推進課

区内外で活動する伝統工芸士の社会的評価の向上を図り、区民の伝統工芸への興味・関心を喚起するため認定制度を実施します。

大田区伝統工芸士の認定

NEW 大田区伝統工芸展

文化芸術推進課

約20種の伝統工芸の実演やワークショップを通じて、職人の技と手仕事の魅力を広く発信します。

おおたの文化 week in GRANDUO

文化芸術推進課

駅ビルとの公民連携事業として、区の伝統工芸を身近に感じる機会を提供するため、実物展示とともに誰でも参加できるワークショップも同時開催します。

大田地域遺産写真展

地域力推進課

100年後の区民に残したい区内の風情ある場所や建造物、伝統的な芸能、祭礼などの写真を募集し展示します。

洗足池 春宵の響

文化芸術推進課

笛や囃子などの和楽器演奏の鑑賞を通じ、日本の伝統芸能に触れれる機会を提供します。

和っく和っくな学び舎

文化振興協会

区内で活動している古典芸能などの文化団体と連携し、こどもから大人まで日本の伝統文化を身近に体験できる機会を提供します。

和っく和っくな学び舎 書道

用語解説 大田区伝統工芸士の認定

第4章

大田区の伝統文化って?

コラム3 地域に根ざしているかたちのない文化財

現代に伝わる祭りや郷土芸能といった伝統行事は、長い年月をかけて育てられ、伝えられてきた固有の文化であり、昔の生活や社会を知る上でとても重要なものです。その多くが、悪疫退散、豊作・大漁祈願、死者の弔いなど、「平和・平穏への祈り」を起源としています。また、娯楽の少なかった時代においては、こうした人が集まる行事が数少ない楽しみの一つであり、地域のコミュニティ形成にも大きくかかわっていました。

大田区においては、池上本門寺の御会式をはじめ、厳正寺の水止舞、六郷神社の子ども獅子舞や流鏑馬、今泉延命寺の双盤念仏、羽田の水神祭など、地域の特色を持つ行事が数多く知られます。こうした「かたちのない文化財」は、人から人へと伝えていかなければならない一方、限定的な範囲で行われることが多いため、後世に残していくことが難しいという課題があります。これまでの自然災害や戦争など、幾多の困難を乗り越えた先に、今の「祭り」の姿があるのです。

厳正寺水止舞

コラム4 文化資源を生かしたまちづくり

区内各地には由緒ある神社仏閣や町工場、旧家などが点在し、地域に根ざした伝統行事・祭礼などが受け継がれてきましたが、近年これら貴重な歴史・文化資源が徐々に失われつつあります。

区はこれまでも景観計画の策定などを通じて歴史文化の継承に努めてきましたが、区内の地域特性を生かしながら、次世代へと継承するための一体的かつ戦略的な仕組みを構築する必要があることから、令和7年度末に「大田区歴史的風致維持向上計画」を策定します。

博物館などが中心となって調査・研究した地域ゆかりの文化資源を保存・活用し、ハード・ソフト両事業の連携によって、歴史・文化をめぐり、訪れたくなる、ウォーカブルなまちをめざします。

池上本門寺五重塔

コラム5 区民団体がいざなう伝統文化体験

おおた和の祭典（現「和っく和っくな学び舎」）は、平成29（2017）年からスタートしました。区内には古典芸能などの文化活動団体が多く、体験者の受入態勢がしっかり整っていることを生かした事業です。文化振興協会と団体が連携し、複数回にわたる稽古、集大成として成果発表会の機会をつくっています。体験できる分野は毎年変わり、箏、三味線、笛、小鼓、太鼓をはじめ、書道、茶道、華道、日本舞踊、和太鼓など多岐にわたります。

この事業をきっかけに、それぞれの団体が活性化するなど、伝統文化の継承の一翼を担っています。この体験を入口に伝統文化をさらに深く学ぶ参加者もいるなど、区内の伝統文化の普及・継承につながっています。

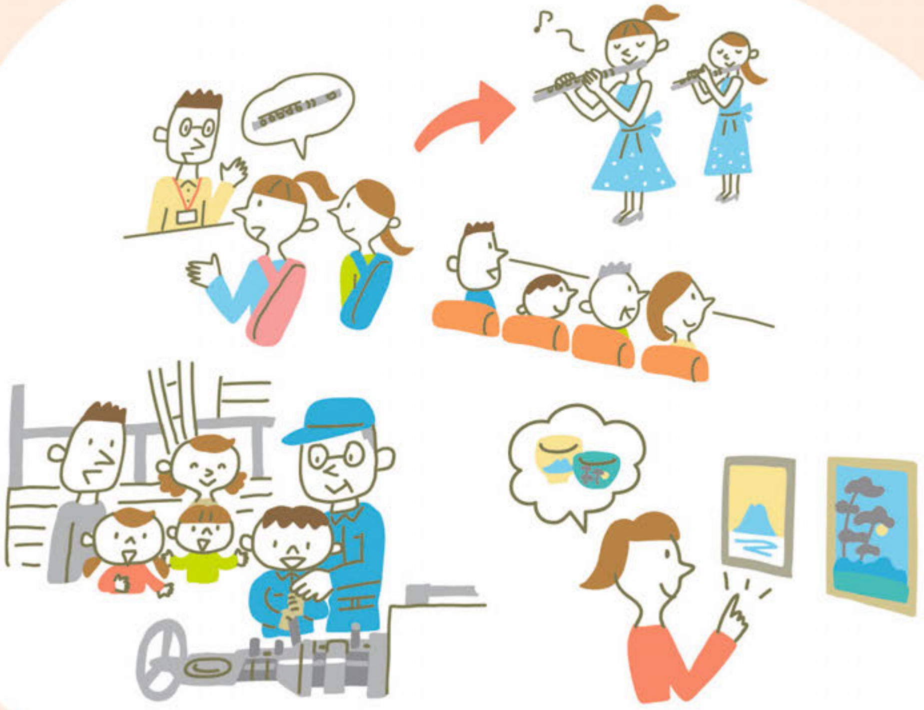
和っく和っくな学び舎 和太鼓

施策 3 文化芸術を通じた地域づくりに貢献

文化芸術は余暇や趣味にとどまらず、異なる背景を持つ人々が共に生きる地域社会の発展に貢献する力を持っています。日常生活では出会うことのない人同士が文化芸術を通じて出会い、相互理解と多様性を受け入れる土壌が生まれ、地域コミュニティが活性化していくことをめざします。

めざす姿

文化資源を生かして人と人のつながりが生まれています



施策3−1 文化資源を生かした地域コミュニティの活性化

文化芸術事業の企画・運営に意欲がある区民の支援、ホール・展示機能を持つ文化施設の特色を生かした事業の実施、ものづくり産業をはじめとした区内で盛んな分野と文化資源を掛け合わせたコンテンツの製作など、文化資源を生かした分野の垣根を越えた交流の場づくり、地域の活性化に取り組みます。

事業例

大田文化の森を拠点とした区民企画事業の実施

大田文化の森運営協議会

大田文化の森運営協議会が主体となって事業を企画・運営するとともに、区民が企画した事業や講座を実施・支援します。

NEW 記念館ミュージアムグッズの制作

勝海舟記念館

町工場と協働し、記念館でオリジナルグッズを制作、販売します。

記念館ミュージアムグッズの制作

地域で親しまれている実演芸術

文化振興協会

区民プラザでは昭和62（1987）年の開館以来「下丸子らくご倶楽部」、「下丸子ＪＡＺＺ倶楽部」を開催しています。

地域で親しまれている実演芸術

NEW ふるさと納税返礼品

総務課、郷土博物館、勝海舟記念館

ふるさと納税返礼品に川瀬巴水の版画をデザインしたアクリルブロックと蒲田切子のグラスを採用し、区の魅力を広く発信します。

ふるさと納税返礼品 アクリルブロック

OTAふれあいフェスタ

文化芸術推進課

「地域のふれあい」、「交流の輪」を基本テーマに、人と人との輪を育むことを目的とし、区民が集い、楽しみ、触れ合える機会を創出します。

OTAふれあいフェスタ

OTAアート・プロジェクト

文化振興協会

地域の文化資源をテーマにした事業を通して、区民がその魅力を身近に感じ、未来に向けて新たに共創していくための創造プロジェクトを開催します。

今後充実させる事業

地域コミュニティ活性化のカギは「つなぐ」人材

文化振興協会

大田区文化芸術推進協議会の場で文化芸術活動をする際に「どこに相談したらいいか窓口がわからない」といった意見が多くありました。

文化資源を生かした地域コミュニティの活性化には、地域の文化資源に精通し、ヒトとヒトや、ヒトとモノをつなぐ人材が欠かせません。区は、文化芸術分野に専門性とノウハウを持つ文化振興協会とともに、文化資源をつなぐ事業の強化に取り組みます。

コーディネート機能の強化

文化芸術活動をする区民の身近な相談窓口として、文化振興協会が区民や文化芸術団体、芸術家をつなぐコーディネート機能をより高めていきます。

コーディネーター、企画・運営者の育成拡充

文化振興協会は、コーディネーターや文化芸術事業を企画・運営する人材育成の拡充に取り組みます。また育成した人材同士をつなぐ研修会や交流会を開催し、つなぐ人材のネットワーク化と自立的・持続的な活動をサポートします。

施策3−2　豊富なメディアによる情報発信とコーディネート機能の強化

区は文化芸術にかかわるイベント情報や顕在化させた文化資源を、多様なメディアを通じて発信しています。発信された情報同士がゆるやかに結びつき、関心のあるテーマを軸につながる新たなコミュニティが生まれていることから、情報発信を継続していきます。また、文化資源にかかわるヒト・モノ・コトの情報一元化の検討と、コーディネート機能の強化に取り組みます。

事業例

文化振興協会情報誌「Art menu」の発行

文化振興協会

文化振興協会が主催・共催する事業や施設情報を掲載したメディアです。

文化振興協会情報誌「Art menu」

文化芸術情報紙「ART bee HIVE」の発行

文化振興協会

公募した区民記者と共に、区内の官民を問わず、文化芸術情報の収集・発信を通し文化資源を顕在化することを目的としたメディアです。

文化芸術情報紙「ART bee HIVE」

NEW 「+bee!地域の文化資源顕在化とつながり創出」

文化振興協会

文化振興協会ホームページに「ART bee HIVE」で取材したギャラリーやアーティストに関する情報を「+bee」としてさらに掘り下げ紹介しています。掲載情報をきっかけに地域の人同士がゆるやかにつながっています。

ART bee HIVE

地域情報紙の発行

特別出張所

地域に関する情報や生活に密着した出来事、地域の歴史・文化などの情報を紹介する情報紙を発行します。

地域情報紙

ポータルサイトの活用

地域力推進課

目的や地域別など、区民が知りたい情報を探しやすいポータルサイトを運営します。

生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」

おおた まなびの森

大田区公式SNSなどでの情報発信

広聴広報課

区報、大田区公式SNS（X、YouTube、LINE）及び大田区シティプロモーションサイト「Unique Ota」（X、Instagram、Facebookを含む）を活用し、文化施設で行われるイベント情報をはじめ、文化資源を広く発信します。

広報おおた（区ホームページ）

大田区 シティプロモーションサイト「Unique Ota」（区ホームページ）

おおた区報

施策 4 多様な分野の社会課題解決に向けて文化資源を活用

文化芸術は、心豊かな活力ある地域づくりに重要な力を持っています。私たちの心のよりどころであり、多様性や包摂性*、相互理解を育み、人と人をゆるやかにつなぎ、イノベーション*を生むことができます。各分野で複雑化する社会課題解決へのアプローチとして、区が持つ文化資源を活用した、多面的で有機的な連携*が進むよう働きかけます。

めざす姿

暮らしのなかで
文化資源の活用が進んでいます

多様な分野とは・・・
まちづくり、国際交流、多文化共生、福祉、健康、教育、子育て、ものづくり産業、観光、防災、環境など

連携事例

おおた健康経営事業所への情報提供 健康医療政策課

働き盛り世代の健康保持・増進を見据え従業員の健康づくりに経営的な視点から取り組む区内事業者を募集し、認定・表彰する事業です。認定事業所に対して、従業員のメンタルヘルス向上のアプローチの一つとして、郷土博物館企画展のお知らせなど、文化芸術に触れる機会を案内しています。「大田区　文化に関する意識調査」の結果で、文化芸術を鑑賞することで「楽しみ、幸せ、心身の健康」が増えると回答した区民が８割強だったことを受けて実施しています。

健康

赤ちゃんと一緒に博物館へ 郷土博物館

子連れで行くことが難しいと思われがちな博物館に気軽に来館してほしいという目的で、２歳未満の乳幼児とその保護者を対象に定期的に実施しています。学芸員による展示解説とボランティアによる乳幼児向けの読み聞かせを行っています。

子育て

参加者の声

博物館は大きな声を出せない場所ということで、子連れで行くことに心配がありなかなか足を運べていなかったので、大変嬉しく思います。

教員の初任者研修で対話型鑑賞*の実践 指導課

対話型鑑賞とは、グループで対話を重ねながら美術作品を読み解いていく美術鑑賞方法です。絵や写真など視覚的な情報を読み解く思考力や、それを言語化して伝えるためのコミュニケーション能力、人の意見を聞く傾聴力などを培うことができます。

学校における学級運営でも生かすことができると考え、龍子記念館の展示作品を活用し、大田区教育委員会初任者研修で実践しています。

教育

教員の声

積極的に話すことが難しいと思っているこどもが、「誰でもいつでも気軽に話していい」ことがわかるし、教員はこどもたちにどういう質問をしていくか考えることでコーディネート力が向上すると思います。

お祭りがもたらすにぎわいと地域の輪 大田文化の森運営協議会

「大田文化の森」を拠点に活動する区民団体と地域の自治会連合会が主催となって、毎年夏祭りを開催しています。当日は近隣に住むこどもや大人による多ジャンルの演奏やダンスが披露されたり、だれでもステージでカラオケに参加したりできます。お祭りを盛り上げる仲間として出展者を広く公募し、お祭りのフィナーレを飾るのは全世代が楽しめる盆踊りです。地域に絆とにぎわいをもたらす夏の風物詩となっています。

にぎわい

用語解説 包摂性、イノベーション、有機的な連携、対話型鑑賞

区内最大の区民まつりで味わう世界の音楽 ～異文化を理解する～

文化芸術推進課

毎年11月頃に開催している「OTAふれあいフェスタ」は区内最大の区民まつりで、令和7年の開催で36回目となりました。区内に130の国・地域からやってきた外国人が暮らしているという区の特色を生かし、国際団体による音楽や舞踊のライブパフォーマンスを披露する「国際交流ステージ」を開催しています。来場者は、普段なかなか触れることのできない世界の国・地域の伝統的なパフォーマンスに触れ、楽しむことができます。

このほかにも「OTAふれあいフェスタ」の会場内では、各国の民芸品や郷土料理などを販売しており、世界の文化芸術を存分に味わうことができます。

多文化共生

おおたオープンファクトリーの開催

大田観光協会

区のものづくりの魅力や価値を広く発信し、町工場で働くことにも興味を持ってもらうことを目的にした1日限りのイベントです。通常は立ち入ることができない工場内部を一般に公開し、製品の展示紹介や、ワークショップを開催します。

ものづくり

障がい者福祉施設利用者の社会参加促進

志茂田福祉センター

おおむすび連絡会では、障がい者福祉施設利用者と企業やアーティストなどと連携し、施設利用者と一緒にオリジナル商品を開発するなど、障がいのある方の社会参加に取り組んでいます。ここでは、志茂田福祉センターがつなぎ役となった事例を紹介します。

福祉

●羽田空港手荷物カートのデザイン

おおむすび連絡会が紹介した区内在住のアーティストと障がい者福祉施設利用者が協働し、制作した作品を羽田空港の手荷物カートに活用しました。参加者の個性とデザイナーの専門性が掛け合わさり、羽田空港に彩りをもたらしています。

●大ヒットミュージアムグッズの製造

勝海舟記念館のミュージアムグッズである「勝茶」の製造に携わっています。ティーバッグを詰め、勝茶のラベルシールを貼付して完成させます。施設利用者自らが納品に帯同し記念館で販売している様子を体感することで、社会に貢献している実感や喜びにつながっています。

●アーティストの力を借りて商品開発

障がい者福祉施設の商品の魅力を一層高める取組として、文化振興協会と連携し「+Art(プラサート)」を実施しています。区内在住のアーティストの派遣を受け、施設で製造・販売している商品の開発や、施設利用者によるデザインをブラッシュアップさせた商品をつくっています。魅力ある商品を製造・販売することで、施設利用者の活躍の場を広げるとともに工賃向上にもつながっています。

おおむすび連絡会（大田区生産活動支援施設連絡会）とは

区内の障がい者福祉施設が連携して、利用者の工賃（給料）向上・社会参加を促進する取組を推進する組織です。

受注作業や商品（自主生産品）の製造・販売について検討・協議することなどを目的に、区内32の施設・関係機関が加盟しています。